



新緑のシャワーを浴びながら自分のペースでゆっくりと山頂を目指す



津地橋から見た宝仏山



登山道には親切な案内板が

みどりの日に登山道開き

新緑の宝仏山を登る

新 緑の季節を迎えた4月29日、大山隠岐国立公園の宝仏山山開きが行われました。

みどりの日（祝日）の恒例行事になった山開きには、県内外から約70人が参加。標高1005㍍の山頂を目指しました。

参加者は、登山道入口の町歴史民俗資料館前に集まり、登山の安全祈願をした後に出発しました。

杉 林を通り抜け、約40分で小平こなを通過。クヌギやブナおの林を通り抜け、大平なを過ぎると景色が開けてきます。この時季には珍しく雪化粧した大山を左側に見ながら歩き、標高800㍍付近になると急な坂道が続きますが、参加者は自分のペースでゆっくりと登っていました。

山頂までの道のりは、高低差800㍍の約3㌾。早い人



山頂の景色と空気は最高と一休み

は約2時間で登っていました。岡山県玉野市から参加した片桐弘一さんは「宝仏山の登山は今回で4回目。大山がこんなにきれいに見えたのは初めてです」と話していました。

宝

仏山の登山道は、平成11年に、まちの観光と地域の活性化にと、「こうぎんすぎの子会」（夏賀宏忠会長）の会員らが半年かけて山道を整備。昨年10月には、山頂に記念碑を建てました。

宝仏山は、古くから信仰の山として知られ、平成14年3月に大山隠岐国立公園に編入されました。山頂からの景色は絶景で、東に毛無山、北に大山、南西方向には奥日野の山並みが見えます。

国立公園編入以来、四季を通じて多くの登山客が訪れています。